

caminorabo-0



かみのらぼ ロゴタイプデザイン : C. Takuya KOBATA / Tsubasa TOKUDA AD.D. Yoh TAKAOKA

●「かみのらぼ0号(パイロット版)」の発刊 (日本文学科・小畑拓也研究室との共同研究)

かみのらぼ -camino raboという名は、尾道のイメージをあらわす言葉を探す、学生・教員合同の「あそび」から生まれました。尾道=「尾」+「道」をそれぞれ、世界のいろいろな言葉で置き換えていて、スペイン語の「尾=rabo」+「道=camino」にたどり着いた。

「camino rabo」と並べると「かみのらぼ→紙のラボ(研究所)」とも読めて、尾道を拠点とした大学発信の雑誌という性質を端的に表現する言葉となる。小畑研究室で生まれたこのタイトルを、高岡研究室でロゴデザインし、編集・執筆を両研究室が、レイアウトデザインを高岡研究室が担当した。

0号(パイロット版)の編集会議を行う中、初回の特集内容を「復活と再生」というキーワードに集約した理由は、尾道には、様々な歴史的事象や場などを、過去を有効に生かしながら、新たな発展を遂げている例が数多く存在しており、ある視点で尾道を俯瞰した時に、一つの象徴的な動きだととらえたからである。

尾道市立大学から生まれた『かみのらぼ』は尾道と尾道にゆかりの深い地域の、歴史、文化、イベント、人物などを掘り下げて取材し、詳しく、わかりやすく、楽しく、市民や観光客などにお伝えする。

今回のパイロット版は、2009年に企画立案し2012年にパイロット版の発刊に至った。2011年からは、新たに開講した「エディトリアルデザイン」授業での制作とし、高岡と小畑准教授が企画立案したものを、学生が取材・レイアウトするという方式に移行している

0号では、水祭りという小さいながらも復活再生を遂げたお祭り取材を巻頭に配し、常称寺での139年ぶりとなる神事や、当大学・小野環准教授の空家再生をベースとしたアートワークについてのインタビューなどを掲載している。

パイロット版制作では、多くの方々にご助力願ったが、1号以降では、より広く市民や有識者の方々とのコミュニケーションを図りながら、独自の視点を持った紙面作りを目指している。

- ・かみのらぼ1号=2011年度取材:特集タイトル「水と商い」(2013年4月発刊予定)
- ・かみのらぼ2号=2012年度取材:特集タイトル「キリ+トル」(2013年10月発刊予定)